

西 順 蔵 名 誉 教 授 著 訳 目 録

- 一九三九年
朱子に於ける善悪の問題
藤田幽谷
- 一九四〇年
支那思想の最近の研究について
* 教学の世界——周濂溪の学——
- 一九四一年
* 疑 經
- 一九四二年
北支農村の宗教概況
- 一九四三年
満洲国の宗教問題
- 一九五一年
* 三人の北宋士大夫の思想
* 程明道の天理——性理学の理的性格——
- 一九五二年
* 対 句
* 主語のない言葉——中国語についての試論——
* 張横渠の思想——「天地」といふ世界——

- 『国民精神文化』五—三
- 『国民精神文化』五—一—一
- 『国民精神文化』六—三
- 『国民精神文化』六—一—二
- 『国民精神文化』七—七
- 『国民精神文化』八—八
- 『大東亜文化建設研究』四
- 『一橋論叢』二六—一
- 『哲学雑誌』六六—三
- 『一橋小平学報』四月
竹田博士還暦記念『中国文化研究会
論文集』二—四特輯
『一橋論叢』二八—二

- 〔例会要旨〕 宋学の性質について
一九五三年
- * 中国の「実践論」「矛盾論」について
* 中国の「実践論」「矛盾論」について——理論の実践性——
* 北宋その他の正統論
* 天下・国・家の思想
一九五四年
- 姿勢を正しく——彼の立場に立って読むこと——
宋代の儒教
* 周濂溪の聖人説
* 孟子の道義説
一九五五年
- 仏教と中国思想
* 「戴震の方法」試論
一九五六年
- 月並なはなし
『東洋の名著』（中国思想の部）
* 竹林の士とその「自然」について
嵇康「声無哀楽論」日訳並びに註
* 魏の君子たちの思想の性質について
一九五七年
- いまごろの中国の、旧思想の研究
一九五八年
- * 孟子と荀子の天下説
- 『東京支那学会報』一一
『現代中国』一五
『現代中国』一八
『一橋論叢』三〇—五
『大倉山論集』二
『図書新聞』二五〇
『歴史教育』二—八
『一橋論叢』三二—四
『大倉山学院紀要』一
『現代仏教講座』二（角川書店）
『東京支那学会報』一
『一橋小平学報』九月
『毎日ライブラリー』（毎日新聞社）
『一橋大学・社会学年報』一
『大倉山学院紀要』二
『一橋論叢』三六—六
『大安』一五
『一橋論叢』三九—一

中国古代デイスボティズムの諸条件
仏教と中国思想

* 荀子の天下における物とその否定について

『古代寓話文学集』(後藤基巳・高田淳・大滝一雄と共訳)

* 「人民内部の矛盾を正しく処理する問題について」に關係する二三の問題について

* これからの儒教及び中国思想

一九五九年

王船山読書会二つの紹介と王船山の門前の記

一九六〇年

* 嵇康たちの思想

嵇康「釈私論」「太師箴」「家誠」の日語訳並びに注

哲学を学ぶ中国人民

* 嵇康の釈私論の一つの解釈

* 中国近代思想のなかの人民概念

顧炎武の思想

一九六一年

「中国現代哲学」「中国の宗教」

宋代の士、その思想史

* 「中国哲学」の「時間論」の動機

* 李大釗

『歴史学研究』二一九

『講座 仏教』四(大蔵出版社)

『東京支那学報』四

『中国古典文学全集』二(平凡社)

『現代中国』三二

『東洋思想講座』四(至文堂)

『中国近代思想史研究会会報』二

『一橋論叢』四三—三

『大倉山論集』八(大倉山精神文化
研究所創立三〇周年記念号)

『世界哲学史たより』六(ソヴィエト
科学アカデミー版『世界哲学史』月
報)

『福井博士頌寿記念東洋思想論集』

『講座 近代アジア思想史』一「中国
編」(弘文堂)

『世界ノンフィクション全集』一一
月報(筑摩書房)

『玉川百科大辞典』二二

『世界の歴史』六「東アジア世界の
変貌」(筑摩書房)

『書報』三六(極東書店)

『一橋論叢』四五—四

自分の書く履歴

〔書評〕 竹内好著『魯迅評論集』

* 莊子(逍遙遊)

* 空論についての空論

一九六二年

*〔書評〕 貝塚茂樹著『諸子百家』

* 思想・思想史の(へかたち)

* 実践に結びつく学習——新島・松村論文を読んで——

〔アンケート〕「アジア・フォード両資金の問題点」

*〔アンケート〕「われわれは要請する」

* 研究の自由を守れ——再論中国研究者と「ヒモツキ資金」——

*〔アンケート〕「A・F問題に関する全中国研究者シンポジウム(紙上発言)」

一九六三年

* 研究のカネ

〔例案要旨〕 清初の中華主義——呂留良の場合——

* 呂晩村

*〔アンケート〕「新人生に望む」

* ある中国哲学のある側面

* 王夫之

儒教を中心とする中国思想——その特質と歴史的社会的背景——

〔資料紹介〕 侯外廬について

『一橋新聞』六九八

『一橋新聞』七〇七

倉石博士還暦記念『中国の名著』(勁草書房)

『一橋新聞』七一—

『図書新聞』六三九

『中国近代思想史研究会会報』二二

『図書新聞』六五一

『中国近代思想史研究会会報』二五

『中国近代思想史研究会会報』二六

『図書新聞』六六一

『アジア・フォード財団資金問題に関する全中国研究者シンポジウムの記録』

『一橋新聞』七三三

『中国近代思想史研究会会報』二九

『一橋論叢』四九—四

『一橋新聞』七三七

『中国近代思想史研究会会報』三一

宇野哲人博士米寿記念論集『中国の思想家』下(勁草書房)

『時事教養』三三四(自由書房)

『中国近代思想史研究会会報』三三

*〔書評〕 東京大学中国哲学研究室編『中国の思想家』上・下
* 嵯康の論の思想

一九六四年

*〔アンケート〕「新入生諸君に——俺のハリコ衣裳は脱がねばならぬ——」
*〔書評〕 荒木見悟著『仏教と儒教——中国思想を形成するもの——』
* 全人民参加の哲学——人間の生産闘争の理性的認識として——
*〔アンケート〕「A・F計画の打ち切り・中止を要求する」
* 無からの形成——〈われわれ中国人民〉の成立について——

一九六五年

*〔書評〕 重沢俊郎著『中国哲学史研究』
〔アンケート〕「日韓問題」

* 聡明な人のばかげたことばについて——「朝鮮統治は共栄の帝国主義」——

〔座談〕 アジアにおける中国

一九六六年

〔座談〕 日韓問題と日本の知識人

* 高等学校の漢文教科書

* 毛沢東——『実践論』まで・その人間観——

〔書評〕 丸山昇著『魯迅——その文学と革命——』

〔座談〕 毛沢東時代をどう評価するか

* 文化大革命は階級闘争である——学者・文化人の懸念に答えて——

『アジアの歴史と歴史家』(増井経夫) および学者知識人について

一九六七年

「こんな問題意識をもって勉強したら……」

〔座談〕 中国文化をどう見るか

『図書新聞』七二二
『集刊 東洋学』一〇

『一橋新聞』七五六

『東京支那学報』一〇

『三田新聞』一〇二四

『中国近代思想史研究会会報』四一

『展望』復刊一(筑摩書房)

『大安』一一一二

『一橋新聞』七八四

『一橋新聞』七八四

『展望』一二月

『現代の眼』二月

『月刊 東書高校通信国語』四二

『一橋論叢』五五—四

『歴史評論』一八八

『潮』七月

『一橋新聞』八〇〇

『中国近代思想史研究会会報』四三

『一橋新聞』八一〇

『読書人』九月一八日

* 哲学の運命について——中国の場合——

序説／中国宗教史略年表／〔座談〕中国宗教の性格について

一九六八年

私見開陳

* 「思想の言葉」

* 書 感

* 妄 読

〔座談〕漢文教育は変わったか

金嬉老氏と在日朝鮮人問題

* 外国人学校制度と在日朝鮮人

あたりまえの要求がなぜとおらぬ

〔会報五〇号を記念して〕

頭 髪

〔座談〕漢文教育と人間形成をめぐって

一九六九年

『中国思想論集』（右記*印論文収録）

批判の府とはなにか

自治・自由と「国益」と

〔座談〕現代世界における研究者

〔座談〕中国革命と近代

〔座談〕日本人と中国

『講座 哲学』一「哲学の課題」（岩波書店）
『中国文化叢書』六「宗教」（大修館書店）

『中国近代思想史研究会会報』四八

『思想』五二三

『東洋文化』四四

『世界文学大系』六九「論語孟子大學中庸」月報一〇（筑摩書房）

『東書高校通信国語』六五

『朝鮮研究』七三

『一橋新聞』八三四

『日中文化交流』一三〇

『中国近代思想史研究会会報』五〇

『アジア経済旬報』七二五

『漢文教室』八八

（筑摩書房）

『朝鮮研究』八四

一橋大出入国管理法案粉碎実行委
ラ・立看板

講座『現代中国』一（大修館書店）

同右二

同右三

一九七〇年

〔跋文〕『中国の近代と儒教』に寄せて

五・一七の保谷市民の集いのこと

支配者のことばをつかうこと

終戦の日本と出入国管理体制

〔韓国語〕

一九七一年

国民健康保険適用の闘い

〔翻訳・解説〕嵇康「音楽に哀楽はないということ」(五六年旧訳の改訳)

〔翻訳・解説〕章炳麟「康有為を反駁して革命を論ずる書簡」
「革命の道徳」
「復仇の是非を定める」
／秋瑾「中国女報創刊の詞」
「敬んで姉妹に告げる」
／総説

一九七二年

序章／終章

随想

「人民内部の矛盾」「矛盾論」「毛沢東」「毛沢東思想」

一九七三年

〔座談〕部落差別への自己批判と私たち

『論語』や『莊子』や

許せぬ権力の差別犯罪

一九七四年

「批林批孔」に関して

捲舌音

高田淳『中国の近代と儒教』(紀伊國屋書店)

『保谷市民の集いニュース』五

『アジア』六月

『保谷市民の集いニュース』九

『保谷市民の集いニュース』

『保谷市民の集いニュース』一四

季刊『トランソニック』夏

『中国古典文学大系』五八「清末民国初政治評論集」(平凡社)

『叢書現代のアジア・アフリカ』一〇
「日本、内への差別、外への侵略」
(三省堂)

『理想』四九〇

『現代中国事典』(講談社)

『たいまつ』四三三

『中国古典文学大系月報』五六(平凡社)

『狭支連新聞』九月十日

『竜溪』九

『中国語』一七三

普通話臆説

一九七五年

ぼくの朝鮮経験は

ことばを争う

雑説

売り買いされる「おふくろの味」

音無し魯迅

藤本さんの『地のさざめごと』の著作権の訴えは、所有権を争う訴えでない。
人間のいのちのおもいを訴えているのである。

京城の防火水槽

一九七六年

〔座談〕 伝統と革新

人間としての学問

〔対談〕 毛沢東の思想

一九七七年

〔翻訳・解題〕 譚嗣同「仁と学」

二つのこと

ささごとく

〔座談〕 部落解放と天皇制

京城生活の断片その他（連載）

一九七八年

狭山と権力合理主義

同和問題の本質について

蔵書——空しい日日のなかで

『中国語』一七四

季刊『三千里』冬

『中国語』一八〇

『岩波講座世界歴史月報』三〇

『大法輪』四月

『中国語』一八七

『地のさざめごと通信』一

『健康』一二月

『中国今昔』(二玄社)

『一橋新聞』九五—

『中国語』二〇〇

『原典中国近代思想史』(岩波書店)

『部落解放』一〇〇号

『健康』七月

『東京部落解放』一〇

『未来』十一月—七八年六月

『日本読書新聞』一〇月一日

『東京部落解放』一四

『図書新聞』七月—五日

解説

傍聴して思った

〈附〉編集・監修

- 『中国文化叢書』六「宗教」(窪徳忠と共同編集)
- 講座『現代中国』全三卷(菅沼不二夫・新島淳良・野原四郎と共同編集)
- 『中国古典文学大系』五八「清末民国初政治論集」(島田虔次と共同編集)
- 叢書『現代のアジア・アフリカ』全十卷(飯塚浩二・坂本徳松と共同監修)
- 『原典中国近代思想史』全六冊(編集代表)

- 『武内義雄全集』八「思想史篇一」(角川書店)
- 『地のさざめごと通信』一四

- 一九六七(大修館書店)
- 一九六九(大修館書店)
- 一九七一(平凡社)
- 一九七一(三省堂)
- 一九七六(岩波書店)

この目録は、印刷物となって公表された限りのものを、刊行年次に従って、いちおう網羅する方針で編成し、実際にもその可成りの部分を尽す結果になったと思う。まことに感謝すべきことに、前半は『中国思想論集』に付した戸川芳郎氏作製の「論著目録」に、それ以後の分は坂元ひろ子氏の丹念な調査に、いずれもほぼ全面的に便乗しえたお蔭で、責任者の能事はそれらを一つにつなぐだけで了ったようなものである。すなわち、大体のところ戸川目録を増補したにとどまって、魂胆横着に似ないではないが、これというのも、『中国思想論集』を寄ってたかって編集刊行して以後、ここにまた殊更別様の区切り立てやら締括り沙汰に及んで、万一わが学人の心境に累ヲ致ス所でもあれば、その罪はなかなか軽くなかろうからである。そここのところの無責任の責任は、やはり明らかにしておかなければならない。(木山英雄謹んで誌す)